

地方史研究協議会福島大会のご案内

大会実行委員長 阿部俊夫（伊達市）

地方史研究協議会は、日本史研究の基礎である地方史研究の推進を目的とする学会です。発足当初から、同会では毎年一回、全国各地の地方史研究者・研究諸団体と連携して、大会を開催してきました。本年度の第七五回大会は、一〇月一八日（土）・一九日（日）、福島県郡山市のけんしん郡山文化センターで開催します。福島県で

開催にあたり、地方史研究協議会の常任委員と地元の研究者を中心とした大会実行委員会では、大会の共通論題を「福島の歴史像—交錯・衝突・交流からみる狭間の地域—」としました。

開東二の表通生の多くは、

域展開

太田勇陽氏「手工業生産から見た古代の福島と西日本」

塩田優花氏 「室町期南奥の情勢変化と国人の対応」

山田将之氏「東西と南北が交錯する戦国末期の南朝

渡邊歩氏「近世前期の会津藩における上層百姓の役割」

佐藤愛未氏「近世後期会津藩における藩領西部の交易政策と地

域展開

石澤夏巳氏「相馬藩の戊辰戦争と戦死者慰靈」

白石烈氏「明治期の会津松平家による明治維新史編纂」

国分俊徹氏「近代郡山における地域有力者と地域振興」

このほか、自由論題研究発表（発表者：泉田邦彦氏・渡辺智裕

云開講演（講演者・岡田清一氏・矢部洋三氏）もありますので、

しきは地方史研究協議会のホームページをご覧ください。

多くの方のご来場をお待ちしております。



は「陸」の付く陸奥・陸中・陸前の国名となつたように、狭間の地域であるが故に、搖らぎを持つてゐるのです。そのために、政治権力が交錯・衝突し、文化が交流する舞台ともなりました。

域であるが故に、揺らぎを持つてゐるのです。そのためには、力が交錯・衝突し、文化が交流する舞台ともなりました